ガムシロップ

七瀬　夏葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ガムシロップ

【Ｎコード】
Ｎ６５５５Ｎ

【作者名】
七瀬　夏葵

【あらすじ】
ある日彼女は彼に言った。「ガムシロップみたいな恋がしたいわ」彼女の言葉の真意とは？読み切りの恋愛小説です。

（前書き）

読み切り小説です。
【甘くて苦い恋】がコンセプトです。
宜しければご覧下さい。

ある日の午後、日当たりのいいオープンテラスのカフェで彼女が言った。

「ガムシロップみたいな恋がしたいわ」

彼は思わず聞き返した。

「ガムシロップ？なんで？」

砂糖菓子みたいな甘い恋、という形容ならまだしも、ガムシロップみたいな、とはどんなものか想像がつきにくい。

一体どんな恋がしたいというのだろう？

彼の疑問に、彼女は未開封のガムシロップを手のひらで弄びながらこう答えた。

「だってコレ、凄く甘いくせに、砂糖よりも溶けやすくて、調整は自由じゃない？だから」

すぐに溶けて交わる、苦いも甘いも調整可能な恋。

彼女は、そんな恋がいいのだという。

「そうか。じゃあ、溶け残った砂糖はさしずめ、交わらない気持ちってとこかな」

彼の言葉に、彼女はへぇ～、と感嘆の声をあげた。

「あなたにしてはおしゃれな例えね」

「うん。まぁね」

たった今、その砂糖のような恋をしてるところだから。
彼は、出かけた言葉を胸に押しとどめた。

「そろそろ出よう。もう氷もすっかり溶けちゃったよ」

彼女のグラスには、すっかり溶けた氷が水と化していた。

「あら、ほんと。ずいぶん長く話し込んでたのね。あなたといるといつも話しすぎちゃうみたい」

そう言って彼女は嬉しそうに笑った。

「ねえ、また相談にのってくれる？」

「いいよ。僕で良ければいつでも」

カフェを出た彼は、これから待ち合わせなのだという彼女を笑顔で見送った。
自分の想いはまだ当分、ガムシロップのようにはなれそうもない。
そう思いながら、彼は小さく溜息を吐いた。

「いいさ、気長にやれば」

一年かけて良き相談相手の地位を築いた彼は、彼女の最も近しい友人の座を手に入れた。
今はまだ、それでいい。
彼はそんなふうに自分を納得させていた。

そんな彼と別れた後、彼女は待ち合わせていた別の友人に嘆いていた。

「・・・・うん。今日もだめだった。やっぱり今更告白なんて無理よ！」

「何言ってるの！絶対大丈夫だってば！彼氏と別れちゃうくらい好きなんでしょ？さっさと言っちゃいなさい！」

砂糖の恋がガムシロップの恋に変わる日が近い事を、彼はまだ、知らない。

読み切り小説
【ガムシロップ】
（完）

（後書き）

【甘くて苦い恋】がテーマだったこの作品。
いかがでしたか？
淡い恋の雰囲気をお楽しみ頂けていれば幸いです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6555n/

ガムシロップ

2010年10月17日19時36分発行